

数字で見るプロジェクト



プロジェクトを進めるにあたって、学生たちがどんなものを欲しがっているのか、どんなものに困っているのか、日ごろから学生たちと関わっている学生生協の職員の意見を参考に物品調達に奔走しました。

事業に賛同いただいた皆さまからのフードドライブ品をはじめ、フードバンク奈良から寄贈された食品など、その量は想像を超える膨大なものでした。



食品や日用品、文具などを自由に持ち帰ることができる「ご自由に」コーナーは、どこの学校でも人気でした

支援をした学生数 (のべ)



1,964 人

配布した精米総量



食品と同時に配布

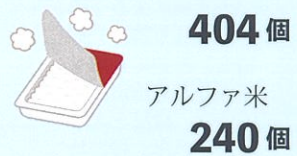
5.03 t

奈良市から事前に配布

4.28 t

配布した食品

レトルトパックご飯



インスタントラーメン



小餅 (5 個)・饅頭



レトルトカレー



サバ・ツナ缶・おかず缶



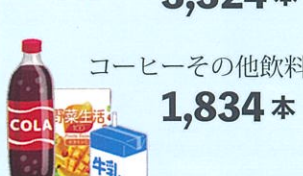
インスタントスープ類



海苔・ふりかけなど



LL 牛乳



菓子類・くだもの缶



生鮮品など



ウェットティッシュ・ハンドジェル・マスクなどの衛生用品



生理用品

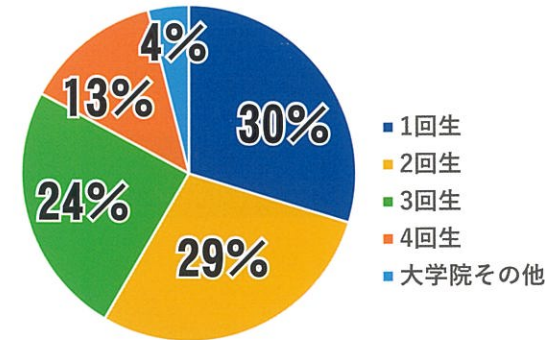


学生アンケートより

食品を配布した各大学で実施したアンケートをもとに集計をしました

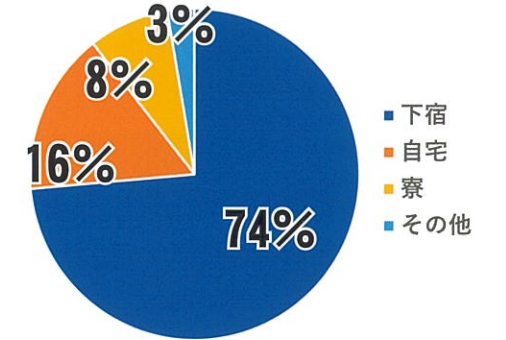
各会場でのアンケート様式に若干の違いがあるため設問ごとに回答人数に差異があります

受け取った学生の学年分布



有効回答人数 359 人

学生の住まい状況



有効回答人数 303 人

アンケートから見えたこと

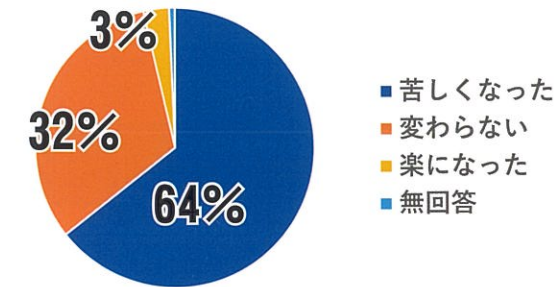
受け取った学生の大半は下宿生と寮生でしたが、自宅生にも門戸を開いた大学では、コロナ禍により自身だけでなく親の生活が苦しくなったという意見も見られ、コロナ禍が学生やその家族に与えた影響は多大だと思われます。

また、金銭的不安以外にも「就職できるのか」「体調を崩した」「オンライン授業についていけない」「友達ができない」「親が倒れてしまった」など精神的な不安で追い詰められている回答も気になるところです。

中でも、友達の前では困っていることは言い出せないといった言葉から「誰でも普通に受け取れる状況にする」ことが大切ではないかと感じました。

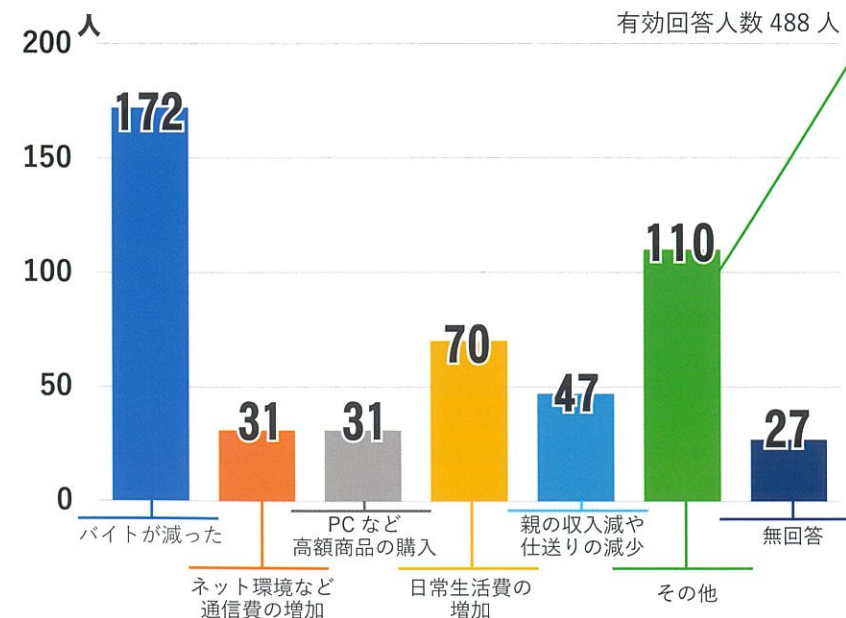
2022年4月に実施したアンケートからも、その「苦しさ」が変わることなく伝わってきています。

コロナ禍による生活の変化



有効回答人数 303 人

生活が苦しくなった理由



その他の理由

- ・就職できるかが心配
- ・コロナ禍で就職活動が思うようにできず不安だ
- ・体調を崩し医療費がかかる
- ・オンライン授業についていけず不安だ
- ・友達ができず不安だ
- ・親が倒れてしまって不安だ

